

平成27年度国際審判員早期育成プロジェクト参加報告書

報告者：板井 優哉(中国ブロック・鳥取県)

○期日：2016年 1月9日(土)～1月11(月)

○場所：国立代々木競技場第一体育館・会議室

第1日目 1月9日

- | | | | |
|-----|----------------------|-----------------------------|-----------------|
| 開校式 | 挨拶・早期育成プロジェクトについて | | |
| 研修1 | ルールテストおよび語学研修 | 講師：高城邦弘氏 | |
| 研修2 | 観戦研修(全日本総合選手権 女子準決勝) | | |
| | 観戦後、ディスカッション | | |
| 研修3 | 講義「国際審判員にむけて」 | 講師：熊谷久美子氏
増淵泰久氏
須黒祥子氏 | 加藤誉樹氏
中嶽希美子氏 |
| 研修4 | 観戦研修(全日本総合選手権 男子準決勝) | | |
| | 観戦後、ディスカッション | | |

まず、吉田委員長、平氏より本プロジェクトの趣旨の説明があった。

続いて、ルールテストと語学研修が行われた。ルールテストは、全文英語による出題であった。語学研修は高城氏との個別のインタビュー方式で行われた。質問の内容は、職業、出身地、移動手段、出身地の人口、出身地の都道府県の漢字の意味などであった。ルールテスト、語学研修、どちらにおいても英語に関する部分での力の無さを痛感した。高城氏の「英語を勉強するのではなく、英語で勉強する。」というお話が印象的だった。

観戦研修では、観戦後に実際の審判ミーティングが行われている場に参加することができた。その後、受講生でディスカッションが行った。女子準決勝では、リードの動き方(プレーの受け方)、スクリーンやポストアップのところでの判定について議論した。実際に審判をされた3名にもディスカッションに入っただき、中身の濃い議論になった。

研修3の講義では、現在活躍しておられるたくさんの国際審判員の方のお話を聞くことができた。それぞれの方の国際審判員になれるまでの事や、実際に国際大会に参加した時に経験されたことなど貴重なお話をたくさん聞くことができた。何名かの審判員の方が言うておられた「Good person is Good referee」というお言葉が大変印象的だった。

第2日目 1月10日

- | | | | |
|-----|---------------------|----------|------|
| 研修5 | 国際審判員研修講義1の聴講 | | |
| | 「これからの日本の国際審判員の方向性」 | 講師：橋本信雄氏 | |
| 研修6 | 講義 | 講師：平原勇次氏 | 小澤勤氏 |
| 研修7 | 観戦研修(全日本総合選手権 女子決勝) | | |
| | 観戦後、ディスカッション | | |
| 研修8 | グループディスカッション | | |

午前中に前委員長橋本氏より国際審判員の今後の方向性についてお話があった。最近のFIBAの大会の様子から、国際大会に派遣される審判員が固定化されている傾向があるということだった。そして、国際審判員のライセンスが大きく変更される点とその内容をお話していただいた。大きな変更点として、現在行われているFIBAクリニックが廃止されることが挙げられた。そして2017年以降、国際審判員は国からの推薦制度で10名程度が選ばれ、Elite・Silver・Potentialの3つのカテゴリーに分けられるとのことだった。何よりも活動環境の充実が必要不可欠とお話していただいた。また最近の傾向として、審判員のフィジカルの重要性や、映像解析などを利用したレフリースタッフの導入などがあるというお話をいただいた。また、Social Mediaとの関わり方についての危険性についてのお話もあり、改めて考えさせられる部分であった。

この日も、観戦研修後ディスカッションが行われた。センターの位置取り、点差が離れた時の対応、緊急事態(火災報知器が鳴る)の時の対応などを議論した。この日も実際に審判された3名にも参加していただき、大変貴重なディスカッションの場となった。

その後、受講生同士で「現在の活動について」と「理想の審判像」というお題でグループディスカッションを行った。同世代の審判員の取り組みや考えを聞き、私自身のモチベーションに繋がった。

第3日目 1月11日

- 研修9 国際審判員研修会講義2の聴講
「オリンピックに向けて日本の強化につながる審判とのコンセンサス」
講師：橋本信雄氏 内海知秀氏
須黒祥子氏 平原勇次氏
- 研修10 語学研修(ディスカッション形式)
- 研修11 国内での取り組み
講師：平育雄氏
- 閉校式
- 研修12 観戦研修(全日本総合選手権 男子決勝)

午前中は、講師の方4名によるパネルディスカッション方式での研修だった。内海氏が強化の観点から現在の国際大会における戦術や選手への指導内容をお話され、その意見に対する審判からの観点でのお話を橋本氏、須黒氏、平原氏の3名にさせていただき素晴らしいパネルディスカッションを聞かせていただいた。特に内海氏のお話ほどのお話興味深く、今後の参考になるものがたくさんあり、大変貴重な経験となった。内海氏が「コミュニケーションが取れ、自信がある顔の良い審判が信頼を持てる」ということを言っておられ、とても印象的だった。

また、昼食を取りながらの語学ディスカッションでは、高城氏に参加していただきとても有意義な時間となった。普段から英会話に触れる重要性とともに、根本的なコミュニケーションスキルを高める必要を感じた。

観戦研修では、ディスカッションはなかったが、日本最高峰のレベルのゲームを間近で見られるからこそ感じられるものがたくさんあり、今後の活動に生かさなければと感じた。

本プロジェクトに参加して

今回は、現役の国際審判員の方やトップレベルのゲームを担当される審判員の方など、たくさんの審判員の方と同じ空間で研修をさせていただき、大変貴重な経験となった。普段では、なかなか経験することのできない事ばかりで、多くのことを学び感じることでできたこの研修は、私にとってこれ以上ない充実した研修となった。

この充実した研修の中で、私が感じた事が大きく2つある。

1つめは「情報を仕入れる」ことの重要さである。オンザコートはもちろん、オフザコートでも仕入れるべき情報がたくさんあることを知れた。情報をしっかりと仕入れることで、良い準備ができ、様々なことに対応していけることができる。自分の目指すレフリーに向けて、今後たくさんの情報を収集できる力をつけていきたい。

一方で2つめは、「自分の足元を見つける」ことの大切である。今回の研修を通して、自分の理想との差、また全国の同世代のレフリーとの差を痛感した。目標や理想を考えるばかりではなく、自分の足元をしっかりと見つめなおし、「自分が今できることは何なのか」ということを考え今後の審判活動に取り組み、日々の生活から自己研鑽をしていきたいと思う。

最後になりましたが、本プロジェクト参加にあたり、ご推薦していただいた中国ブロックの大谷審判長、鳥取県協会の田中審判長をはじめ関係の皆様には深く感謝申し上げます。また、プロジェクト開催にあたり、日本バスケットボール協会吉田審判長、本プロジェクトの全体を取り仕切ってくださった平氏、プロジェクトに関わって頂いた先輩審判員の方々、そして総務グループをはじめ、日本バスケットボール協会審判委員会の皆様には、事前の連絡や準備、当日の運営まで細かいお気遣いをして頂きました。この場を借りて深く御礼申し上げます。ありがとうございました。